

第57回 公開講座

「かくして水平社は生まれた」

—西光万吉の宗教的実存と表現主義—

日時 2009年9月25日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

みやはし くにおみ
講師 宮橋 國臣（人権問題研究室委嘱研究員）

昨年（2008）の4月16日にNHK テレビ『その時歴史は動いた』で「人間は尊敬すべきものだ～全国水平社・差別との闘い～」が放映されたが、視聴者にはその残像が微かに記憶されていることだろう。その中で紹介されたのは日本の人権宣言といわれる「水平社創立宣言」（以下は「宣言」とする）であったが、起草者の西光万吉の名前を知っている人は少なくなったかも知れない。

ちなみに、多数の読者を得た『橋のない川』（住井すゑ著）は、かつては今井正監督により映画化もされたが、過剰な演出や突如として「西光万吉」らしき人物が登場するなどの問題点が指摘される場面も少なからずあった。尤も、原作も著者の世界に過ぎなかったかも知れない。いずれにしても、水平社運動の研究者もこの点についてはほぼ同様で、水平社創立のわずか一、二年前の「社会主義者」の青年西光万吉の絶望状況とその根源を捉えることはできなかった。西光が自殺願望を乗り越えることなしには、水平社の結成も「宣言」の起草もなかったのである。西光は内なる差別意識とも格闘しつつ、この絶望的実存から如何にして立ち上がったのか。

従来の研究者においては、この点の解明が放棄に等しいといえる状況にあった。部落問題或いは水平社の歴史とは直接的には無関係ではないか、といった冷徹な論理から、当時の西光に「未熟な青年」のレッテルを貼り、封印したのである。尤も、机上での「研究」は不可能であったろう。「歴史のごとく倫理的なことに無関心」（ピントゥス『表現主義論争』p32）とする歴史学批判は、部落史研究においても正鵠を得ているように思われる。いずれにしても、水平社創立前夜の創立者の人間的解明は歴史的に無視し得るものだろうか。

ところで、近年、「宣言」の起草者が西光万吉のはずだったのに、その「大添削者」として平野小剣が共同執筆者の如き「誤解」が浮上してきていた。西光の没後（1970年3月20日）間もない頃に、某歴史学者が西光の「大添削者」などの発言を真に受けて、紙上にその「誤解」をまことしやかに掲載したことに始まる。そこには「未熟な青年」という予断が潜んでいなかっただろうか。そこで、小著『至高の人西光万吉』（人文書院）を著した同郷の者としては、西光が唯一の起草者であることの論証を託された思いで、彼の実像の解明に専心したのである。その結果、2006年12月に奈良県高等学校教育文化総合研究所から『水平社創立宣言と「エクスペリエンシズム」』（改訂新版）を発行した（当人権問題研究室の『室報・第39号2007-7』には小椋孝志先生の「書評」が掲載されている）。

しかし、「宣言」が西光の起草によるとの論証、および彼の人間像の浮き彫りは不十分のきらいがあった。その後、2007年12月に「水平社創立者の精神現象論（西光万吉の精神世界）」を人権問題研究室の「紀要」に発表するに至ったが、更なる知見の深化や知己らの助言もあり、今回西光の実存的生（宗教的実存の展開）と社会主義者としての思想的深化の解明を世に問うことにしたのである。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。
手話通訳が必要な場合は、9月17日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。

第59回 10月23日（金）13：00～14：30 「障害者雇用に取り組む企業のHRM」

第60回 11月27日（金）13：00～14：30 「2008年関西大学学生の意識調査からみたジェンダー（仮題）」

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680

吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>